

年 組 () 名前

サイン

実^みぎっしり びっくり



◆おいしいものがとれる秋になりました。大阪府^{おおさかふ}の箕面市^{みののおし}というところでは、クリがたくさんとれています。
(2023年9月29日 読売新聞大阪版より)

とれたばかりのクリ
を手にする吉田さん

箕面市^{みののおし}下止々呂美^{しもとどろみ}の吉田周平^{きちしゅうへい}さん(48)の山で、丸々と実った栗の出荷作業がピークを迎えている。

吉田さんは飲食店を経営するかたわら、所有する山の斜面約1^{ヘクタール}で約250本の栗の木を栽培。「銀寄^{ぎんよし}」や「利平栗^{りへいり}」など国内を代表する品種がそろそろ。

出荷作業では、斜面に落ちた「いが」を拾い集めて作業場に

箕面^{みののおし}・下止々呂美^{しもとどろみ}

運び、実を傷つけないよう注意しながら足を使って中身を取り出す。吉田さんは「今年は雨量が少なく例年よりやや小ぶり」と謙遜するが、いがの中には実がぎっしり。栗ご飯や焼き栗がおすすめです。吉田さんは「府北部が栗の産地だと知らない人が多いので、ぜひ、味わって知ってほしい」と話していた。

※先生^{せんせい}やおうちの人^{ひと}と
いっしょに読^よみましょう。

【1】写真の男性が手にしている木の実は何でしょうか。

【発展問題】公園^{こうえん}や山林^{さんりん}を歩くと、いろんな木の実^{きのみ}が落ちています。見つけた木の実の名前^{なまえ}や形^{かたち}をうらにたくさんかきましょう。

--	--

年 組 () 名前

サイン



ひょうげ祭り 奇抜な化粧

高松 150人練り歩き 豊作願う

顔に奇抜な化粧をして町内を練り歩き、豊作を願う「ひょうげ祭り」が10日、高松市香川町で行われ、地元の人や子どもも計150人が参加した。

「ひょうげる」とは讃岐弁で「おどける」という意味。江戸時代に水不足を解消するため、ため池「新池」を整備した矢延平六の徳をしのび、豊作に

感謝する神事として、約300年前に始まったと伝わる。

参加者は、顔に太い眉毛やひげを描いたり、ほお紅を塗ったりし、飼料袋やハスの葉などで作られた衣装を身にまとった。

(2023年9月12日)

読売新聞香川版より

◆顔に奇抜な化粧をした人たちが歩いています。いったい何をしているのでしょうか。

【1】「ひょうげる」とは讃岐弁(香川の方言)でどのような意味でしょうか。

【2】【1】と同じ意味で使われる各地の方言を調べて書きましょう。

【3】あなたの住む地域で行われている祭りについて調べ、どのような祭りか、外国から来た人にも分かるように説明しましょう。

年 組 () 名前

サイン

沢田教一撮影の「安全への逃避」のパネルを前に話すアンさん(左)とリエンさん。パネル左上にアンさん、中央にリエンさんが写っている。左下が2人の母親(8月24日、ベトナム中部ビンディン省で、安田信介撮影)



ベトナム戦争

沢田教一撮影

◆報道写真家、沢田教一(1936～70)のピューリツァー賞受賞作「安全への逃避」。被写体となった兄と妹が取材に応じ、平和の尊さを語りました。

山々を背後に稲が風に揺れるビンディン省ロックトゥオン村。米軍は1965年、南ベトナム解放民族戦線(ベトコン)の掃討作戦で連日、爆撃を続けていた。「安全への逃避」は川を渡って逃げる2組の母子を写したものだ。

65年9月6日は晴れていた。正午頃、当時14歳だったゲン・バン・アンさん(72)が8歳の妹のゲン・ティ・キム・リエンさん(66)や母、村人らと防空壕で息を潜めていると、爆撃の轟音が響いた。米兵たちが近寄り、銃を向けてきた。子供は泣き叫び、女性の手を合わせて「殺さないで」

と懇願した。アンさんは「ここで死ぬ」と感じた。米兵たちは、安全な場所へ移るように命じた。アンさんとリエンさんは母に導かれ、爆音の中、自宅の前の川に足を踏み入れた。10分ほど向こうの岸で軍服を着た男が銃のようなものを構えていた。「カシャッ」という音が聞こえ、撃たれると思った。必死で岸に上がると、周囲には村人の遺



「安全への逃避」今も感謝

(2023年9月25日
読売新聞朝刊より)

被写体の兄妹「母は誇り」

体が転がっていた。安全な場所を集められ、午後5時頃に帰宅を許された。

男が写真家だったと知ったのは1年後、沢田が写真を持って村を訪ねてきた時だった。会話をした記憶はないが、ハンサムでフレンドリーだったのを覚えている。沢田は68年に再訪し、コメや現金を手渡した。

アンさんとリエンさんはそれぞれ結婚し、農業を営む。生活は楽ではないが、多くの子や孫がいる。母は40年ほど前に亡くなった。

アンさんは「死が身近だった当時を思えば、塩をかけただけの飯でも満足できる」と言う。リエンさんは「飢えもないし、目覚めても爆弾の音が聞こえないことがありがたい」と話す。

「安全への逃避」について、リエンさんは「当時のベトナムではどこにいてもあった」と振り返る。それでも沢田に感謝するのは、写真を見る度に「子供たちを安全に導く勇敢な母」を思い出させてくれるからだ。「母を誇りに思う」と話す。

【1】写真に「安全への逃避」というタイトルがついた理由を説明しましょう。

【発展問題】ベトナム戦争について調べ、分かったことを裏に書きましょう。

年 組 () 名前

サイン

防災備蓄食 弁当にリメイク



6月下旬、弁当の製造・宅配を行う障害者の就労継続支援事業所「みつわファクトリー」（大阪府寝屋川市）で、施設利用者ら約20人がオムライスを調理していた。普段使う米の代わりに非常食のアルファ米を使用した「サステナブル弁当」。通常時とレシピはやや異なるが、利用者は手際良く仕上げていった。

アルファ米は、物流会社「日本トランスシティ」枚方営業所（同府枚方市）が備蓄し、7月に賞味期限を迎えて、処分される予定のものだった。期限が切れる前にみつわファクトリーに寄付し、完成した弁当は同

営業所が購入。みつわファクトリーの収益は、利用者の工賃などに充てた。黒川晴雄・同営業所長は「処分予定のアルファ米とは思えないほど、おいしく食べられた。このような活用ができるのは素晴らしい」と話した。

弁当へのリメイクは、防災備蓄食の有効活用を図る公益社団法人「日本非常食推進機構」（WeAct、三重県松阪市）が両者に働きかけて実現した。

非常食を備蓄する企業や自治体は増えている。矢野経済研究所（東京都）によると、防災食品の市場規模は、2020年度の258億円から、26年度は319億円に拡大すると予測される。

新たに購入される食品が増える一方、賞味期限を迎えて入れ替えられる食品は、多くが廃棄されているとみられる。国は19年から、年間20万食分を超える中央省

賞味期限切れを迎える防災備蓄食品を弁当にリメイク

◆企業などが災害時のために保管する備蓄食の賞味期限が切れる前に、弁当にリメイクして活用する取り組みが、関西地方で始まっています。

（2023年8月30日 読売新聞大阪夕刊より）

庁の入れ替え分をフードバンクなど民間団体に寄付しているが、こうした活用は一部にとどまる。

WeActも19年から、企業や自治体から賞味期限が近づいた防災備蓄食の提供を受け、各地のフードバンクや子ども食堂に寄付してきた。しかし、理事長の古谷賢治さん（54）は「寄付だけでは消費できなくなっている」とする。

22年度にWeActに寄付された備蓄食は、アルファ米や乾パンなどの食品が115トに上り、2年前の4・6倍に増えた。膨れあがる分量をさばくため「多くの人が連携した新たな方法が必要」として、食品ロスの削減に加え、障害者就労支援にもつながる取り組みを考案した。

古谷さんは「備蓄食がどのように無駄なく利用されるのか、弁当という見える形で示すことができれば、取り組みは広がるはずだ」と話す。

【1】非常食を備蓄する企業や自治体が増えることで、どのような問題が起きていますか。

【2】「サステナブル弁当」は企業と就労継続支援事業所にとって、それぞれどのようなメリットがあるのでしょうか。

【企業】	【就労継続支援事業所】

【発展問題】家庭の備蓄食を賞味期限切れで廃棄しないようにするために、どのような心構えや工夫が必要だと思いますか。調べたり、考えたりして裏に書きましょう。

8 働きがいも経済成長も



11 住み続けられるまちづくりを

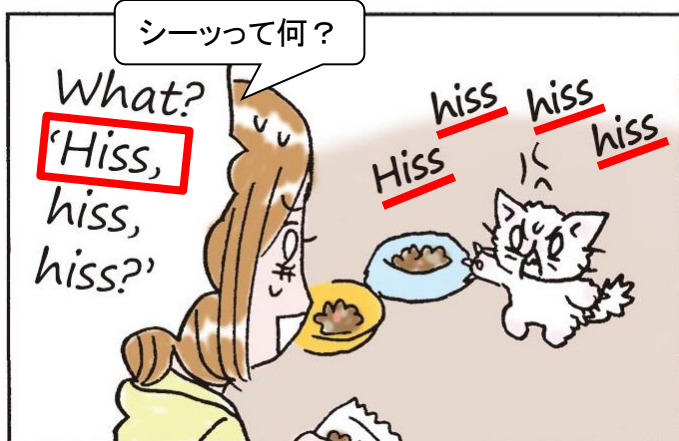


12 つくる責任 つかう責任



年 組 () 名前

サイン



◆ミー太郎の猫語は、球場では捕手や監督、審判にも通じます。でも自宅では、ユキちゃんのお母さんにわかってもらえません。

ヒ ス
hiss

ぎ おん
シーツ(擬音)

あいて だま お はら
相手を黙らせたり追い払うときの「シーツ」と
いう音で、不平不満を表す時にも使います。

★あわせて覚えよう★(擬音)

パー ゴロゴロ(猫がご機嫌の時に鳴らすのどの音)

カ タ ウ オール ギャーギャー(猫がいがみ合うときの声)

ラ ス ル サラサラ、カサカサ

オインク ブーブー(豚の鳴き声)

★なぞってみよう★

hiss

rustle



みなさんの投票をお待ちしています！

読売新聞は毎年、みなさんの投票でその年の「10 大ニュース」を選んでおり、多くの学校も参加しています。今回は初の番外編として、戦国時代の出来事に投票する「戦国 10 大ニュース」を開催中です。児童・生徒のみなさんは、学校投票専用のウェブ投稿フォームから会員登録なしで投票できます。歴史に興味を持つきっかけとして、ぜひ社会科の授業等にご活用ください。

本郷和人・東京大学史料編纂所教授の監修のもと選んだ 52 項目の出来事から、重要だと思う 10 項目に投票していただきます。「正解」はありません。「どの出来事が、当時の人々やその後の歴史、わたしの住む地域にとって重要だったのだろう」と考えながら、自分なりの視点で投票してください。出来事の背景を調べたり、他の人とも意見を交わしたりすれば、より深い学びにつながるはずです。

授業では習わない出来事も、読売新聞オンラインの特設ページで詳しく紹介しています。9月9日の読売新聞朝刊、9月15日の読売中高生新聞、9月21日の読売KODOMO新聞では、出来事を一覧できる年表や、本郷先生の解説も掲載しています。

投票結果は、11月上旬に各紙とオンラインで発表します。「全10項目的中」した人の中から、抽選で30人に5000円分の図書カードを贈呈します。

投票は10月15日（日）締め切りです！

52項目を紹介した
特設ページはこちらから

[https://www.yomiuri.co.jp/
feature/top10news/special/](https://www.yomiuri.co.jp/feature/top10news/special/)



学校投票用の
投稿フォームはこちらから

[https://forms.office.com/
r/uGZYnwBRWg](https://forms.office.com/r/uGZYnwBRWg)



【投票の注意点】

- こちらの投稿フォームは、児童・生徒・教職員のみ利用できます。その他の方は読売新聞オンラインの会員登録（無料）をして参加してください。特設ページの「投票はこちら」を押すと会員向けの投票ページに進みますので、間違えないように注意してください。
- 投票は1人1回です。ただし、ご家庭で読売新聞を購読されるなどして会員向けの「一般投票」をした人が、こちらの投稿フォームで「学校投票」にも参加することは可能です。
- 本企画は、ウェブ以外での投票は受け付けていません。
- 入力された個人情報は、抽選と賞品（図書カード）の発送以外に使用いたしません。賞品が当選した場合は、学校宛てに連絡します。自由記述のコメントは、匿名（都道府県名・学年・性別のみ表記）で紙面やインターネットで紹介する可能性があります。
- 学校名は「〇〇市区町村立／私立」から「××小学校／中学校／高校」まで、学校で統一した表記で入力するように、児童・生徒にも指導してください。入力を誤ると、賞品当選の連絡や学校ごとの集計ができなくなる恐れがあります。
- 多数の投票をいただいた学校などを紹介する場合があります。その際は、学校宛てに連絡します。